

「薬物依存症への支援対策と家族が必要とする支援」研修会

<開催内容>

- ① 鳥取県薬物依存症支援拠点機関の取組 (30分)
山下 陽三 氏 (依存症支援拠点機関 渡辺病院 副院長)
- ② 鳥取保護観察所での取組について (30分)
井田 高志 氏 (鳥取保護観察所 統括保護観察官)
- ③ ダルマ塾の開設と体験談(メッセージ) (30分)
鳥取ダルクスタッフより
- ④ ナラノン(薬物問題家族や友人の集まり)津山の活動について:そら氏(20分)
- ⑤ 家族向けテキスト「幸せを取り戻しましょう」の紹介(30分)
鳥取県依存症支援拠点機関相談支援コーディネーターより
- ⑥ 意見交換会 (30分)

日時: 2021年10月2日(土)

14:00~17:00

場所: 鳥取県東部医師会館(鳥取市富安1丁目58-1)3階 研修室

会場案内

鳥取県内では鳥取ダルクが2005年6月に発足していますが、薬物依存症者への治療支援や地域内での家族会活動が活発化していません。

今回は薬物問題家族や友人の集まりであるナラノンと鳥取保護観察所の取組をお話ししていただきます。また、回復支援施設・鳥取ダルクの新規事業について報告していただきます。さらに、依存症支援拠点機関で作成した家族向けテキストを使用したコミュニケーションの練習を行い、最後に「意見交換会」を30分ほど予定しています。



参加申込は、資料および会場準備の都合上、2021年9月23日(水)までに必着でお願いします。また、新型コロナの流行があるため、会場での参加は先着の50名で制限させていただきます。

※1 座席の配置やアルコール消毒等、感染症対策を講じた上で開催させていただきますが、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大等状況によっては開催を中止させていただく場合もございます。なお、ご来場の際には必ずマスクの着用をお願いいたします。

※2 本研修会はZoomによるWeb配信を予定しております。

「薬物依存症への支援対策と家族が必要とする支援」研修会

鳥取県再犯防止推進計画（平成 30 年 4 月 1 日策定）より引用

薬物依存者への支援等について、国においては、県内矯正施設及び鳥取保護観察所が、専門的プログラムの実施やガイドラインの作成等に取り組んできました。民間団体においては、鳥取ダルクが、薬物依存者の受入れ、回復プログラムの実施、薬物依存者の家族等への相談支援や啓発等に取り組んできました。県においては、依存症に関するネットワーク会議を各圏域で開催、団体（鳥取ダルク等）の運営支援、依存症啓発リーフレットの作成・HP掲載、依存症担当者研修会の実施、精神保健福祉センター及び保健所における相談受付、精神科医による定例相談会、家族教室の開催などに取り組んできたところです。しかしながら、薬物事犯者には、鳥取県更生保護給産会、鳥取ダルク、保健師等の関係機関と連携した一層のケア支援が必要であることや、薬物依存に対する医療機関・体制の不足、薬物依存症者が自助グループだけでは薬物依存症の知識や支援の情報を入手しがたいといった課題があります。（以下略）

鳥取ダルクについて（朝日新聞デジタル 2020 年 6 月 25 日 鳥取版より抜粋）

覚醒剤などの薬物依存からの回復を目指す民間リハビリ施設「鳥取ダルク」が今月、開設から 15 年を迎えた。入寮者らは自身と真摯（しんし）に向き合う。一度は踏み外してしまった人生を再び生きようと回復のための毎日を過ごしている。

鳥取県岩美町牧谷。水平線を見渡せる小高い丘の上に鳥取ダルクはある。かつて教会の保養所として使われた木造 2 階建ての建物に現在 18 人が入寮。多くは薬物依存症者で、中にはアルコール依存症の人もいる。

活動の中心は仲間同士で行うミーティングだ。自身の過去や経験を吐き出すことで客観的に自分を見つめる。午後 7 時からは施設外で開かれる自助グループのミーティングにも参加する。

中国地方初のダルクとして 2005 年に設立。走り出しは順調とはいえなかった。初代施設長が開設から 1 年足らずで再発し、姿を消した。急きよ新たな施設長として赴任した千坂雅浩さん（59）は「入寮者同士のトラブルも絶えず、ぐちゃぐちゃだった」と当時を振り返る。

変化をもたらしたのは、10 年に導入した 4 段階のフェーズ制。達成項目に応じて入寮者の段階が上がる仕組みで、上のフェーズにいけばできることも増え、部屋長やハウスリーダーといった役職も担う。

導入直後は入寮者からの反発も強かったが、2 年ほどかけて定着させると施設内の空気も柔らかくなった。最低限の上下関係を設けたことで部屋長などに悩みを相談しやすくなり、役職を与えられたことに伴う責任感や周囲への気配りの気持ちも抱かせた。フェーズ 4 でハウスリーダーの海人さん（48）は「自分中心の考えがダルクに来て変わった」と話す。

「依存症ってね、やめたいと思ってからが地獄なんですよ」と千坂さんは言う。社会や自分自身に絶望し、回復を前に両親の墓石の前で命を絶った仲間も見てきた。それでも自らも苦しんだ薬物使用という負の過去が、同じように苦しむ誰かのためになると願い、施設を見守り続けてきた。…（記事：矢田文）

FAX 送信票

2021年10月2日(土) 14:00~17:00

2021年度 鳥取県薬物依存症支援拠点機関事業

「薬物依存症への支援対策と家族が必要とする支援」研修会

参加申込書

参加申込先

渡辺病院 松村 行

① FAX 0857-24-1024 ② E-mail : k.matsumura@mmwc.or.jp にて申込可
※申込期限は9月22日(水)です。②のアドレスに、メールにて申込書の内容を記載するか、スキャンした申込書を添付し、送付することもできます。

出席方法

① 会場での参加 先着の50名までに制限させていただきます。

② Web (Zoom) で参加 (注)

(メールアドレス: _____)

(注) Webでの配信はZoomによる配信を予定しております。

「Web参加」を希望される場合は、事前にご自身のパソコン又はスマートフォン等にZoomアプリ(無料版)をインストールしていただきますようお願いいたします。後日、詳細をメールにてお知らせさせていただきます。

発信元

所属: _____

名前: _____

連絡先: TEL _____ (FAX _____)

参加者

所属	氏名